

ふいんてっく通信

～ Vol.23 ～

フィンテック×スーパーアプリ

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

2019年、日本で世帯におけるスマートフォン（以下、スマホ）の保有割合が初めて8割を超えました。日常生活になくてはならない存在となったのですが、サービスを利用する度にアプリを立ち上げる煩わしさがあります。そこで登場したのが、さまざまなアプリを集約したスーパーアプリです。

■ スーパーアプリが新興国で先行したのはなぜか

新興国の方が先進国よりもモバイルの普及が早かったことや、欧米のように世界中で利用できるクレジットカードの決済ネットワーク構築の遅れなどが、スマホ上でワンストップサービスを提供し、フィンテックを活用した簡単に支払いができるスーパーアプリを一気に加速させたようです。

そもそも“スーパーアプリ”と呼ばれ始めたのは、中国テンセントが提供するモバイルメッセージングアプリ「WeChat」上に、フードデリバリーや航空機チケットの購入、ゲーム、ニュース配信などの機能（ミニアプリ）が追加された頃からといわれています。ここでの機能利用料金は、同社独自の電子決済「WeChat Pay」で支払うこととなります。

中国アリババでは、同社が提供する支払いアプリ「アリペイ」上に、公共料金支払いや200万を超える加盟店の情報などの機能を追加したスーパーアプリを提供しています。アリペイの優れた点は、信用スコアと金融商品、保険商品を提供していることで、アプリ内で余剰資金が運用できる「余额宝」といわれるマネーマーケットファンドが代表的です。

このほか、バイクタクシー配車アプリに機能を追加したインドネシアの「Gojek」、乗車サービスアプリに機能を追加したシンガポールの「Grab」などがあります。

■ 日本でも普及する兆しが

日本では、新生銀行グループがスーパーアプリ「BANKIT®」を提供しています。同サービスの特長は、金融グループにはない他社の機能を積極的に取り込んでいることや、機能提供者に資金移動業などのライセンスがなくてもBANKIT®に参加できることなどにあります。



※イメージです。

また、キャッシュレス事業者のソフトバンクGの「PayPay」もスーパーアプリ構想を掲げています。フリマやモール、宅配などに加え、決済分野ではジャパンネット銀行（21年4月にPayPay銀行に社名変更）と連携する準備を進めています。このほか、LINEも複数の機能を集約し始めています。

本文中の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

【アセアンのスーパーアプリ市場】

(億米ドル)



出所：シンガポール経済開発庁のレポート（2020年7月）※上記は推計および予測であり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。